

令和6年度 横浜市社会教育コーナー 管理運営報告書

事業対象施設:横浜市社会教育コーナー 横浜市磯子区磯子 3-6-1-1

事業期間:令和6年4月1日～令和7年3月31日

管理運営団体:特定非営利活動法人 夢・コミュニティ・ネットワーク

1 生涯学習・地域活動団体へ安全・安心な場の提供

(1)開館日数:345 日

休館日(原則毎月第1月曜日&年末年始 全20日)

(2)利用率・利用人数・利用コマ数(別紙:利用状況年間報告書)

(3)登録団体数:365 団体(令和7年3月31日現在)

分野	登録数	分野	登録数	分野	登録数	分野	登録数	分野	登録数
テニス	116	ダンス	37	合唱	34	絵画	17	市民活動	16
楽器演奏	15	太極拳	15	体操	11	読書・朗読	10	自治会・ 管理組合	11
健康福祉	11	外国語	9	子育て支援	7	青少年育成	7	卓球	5
手工芸	6	俳句・短歌	5	書道	5	多文化共生	4	生け花・フラワー アレンジメント	4
ヨガ	3	演劇	2	歴史文学	1	武道	1	ゲーム	1
詩吟	1	その他	11						

利用者・団体の変化

- ・全体の登録団体数は令和5年度356団体から365団体に増えている
- ・新規利用登録団体総数は60団体(令和5年度は61団体)うち、27団体がテニスの団体(令和5年度は37団体)
- ・合唱、絵画、子育て、健康福祉、卓球等、多様な活動団体が新規に団体登録し、活動を開始している

(4)その他

- ・スポーツ広場(区役所側)フェンス工事8月8日
フェンス不具合のため6月19日～8月13日までスポーツ広場の利用を休止した

2 施設の防災・防犯対策

(1) 緊急時の対応

- ・施設内で地震が起きた場合を想定し、磯子消防署の指導のもと利用者に初期対応、館内から UR 公園へ脱出するまでの誘導を行った
- ・その後、無印良品の企画で利用者に防災のためのローリングストックについて学び、フリーズドライのスープを試食した。消防訓練と防災:11月12日
- ・事務所内にある AED について、その取扱い方を消防署職員から 2 グループに分かれて指導を受けた。人形を使い、実際に救急法の訓練を行った。消防訓練:6月3日

(2) 施設内の消火器設置場所、避難をする際の非常灯の場所は日々の業務の中で確認している。

(3) 協栄美装による消防施設設備点検(5月13日) 消防署への報告(6月24日)

(4) 「内水ハザードマップ」では1時間約150mmの雨で内水氾濫が起った際、2cmから20cmの道路冠水相当となることがわかっている。浸水時や地震の際の避難場所は磯子区役所となる。また、地域防災拠点は森東小であることをスタッフ全員で地図を用いて確認している

(5) 窓口にある AED バッテリー交換(7月31日)

3 生涯学習・社会教育に関する相談・コーディネート・情報提供

全相談件数(72件)

4月(6件), 5月(6), 6月(5), 7月(6), 8月(6), 9月(5), 10月(7), 11月(6), 12月(4)
1月(4), 2月(6), 3月(11)

- ・窓口に来て何かやってみたい、始めたいという方が立ち寄り、掲示物を見たり会員募集のチラシを見ることが増えた。掲示物を見ている方に声をかけ、どのような活動を探しているのかを伺い、団体やサークルの紹介、イベント・講座等の情報提供を行っている
- ・生涯学習文化財課の出前研修では中区に2回出向いた。研修では職員が課題と感じている内容を取りあげ、ワークを行いながら職員同士で話し合い、市民の主体性を育むためのスキル向上に取り組んだ

4 社会教育コーナーの評価・検証

(1) 利用者アンケート(別紙「令和6年度横浜市社会教育コーナー利用者会議報告書」参照)

- ・利用者にとって、より快適な施設となることを目的に、利用者の意見を聞く「利用者アンケート」を実施。
- ・社会教育コーナーの運営も3年目となり、アンケート提出数も前年度の202件から、322件と大きく増やしており、顔の見える関係ができてきている
- ・結果についてはグラフにまとめ館内に掲示した
- ・窓口での対応については「わかりやすい」「対応が良い」が91%と引き続き高い評価を得た
- ・利用する手続きや予約方法については、62%が「現状のままで良い」であった。同時に、インターネットで予約を希望する意見も増加し、全体の11%に上った

- (2)事業や講座実施の最後に受講者に向けてアンケートを取り集計している。講座開催を何で知ったか、講座やイベントの感想、居住区、どのような講座があると良いか等、ニーズ把握の情報源とした
- (3) 窓口に「ご意見箱」の設置。施設利用の点検確認票に職員への連絡事項の記入欄を設け、常に利用者の意見を受け取れる環境を設けている
- (4) 利用者に活動を継続するために工夫していることや、メンバー間の連絡方法などを質問し、「桜の花びら」型の用紙に記入してもらった。それを桜の花に見立て掲示し、多くの利用者に見てもらった。84 件

5 業務に関する研修

(1) 施設の管理運営に関する研修

- ・防災実習訓練:全員参加 実施日:6 月 3 日 ・救命救急訓練:全員参加 実施日:11月12日

(2) 個人情報保護に関する研修 実施日:4 月8日

(3) 生涯学習、社会教育等に関する研修

- ・横浜市教育委員会 市民活動・地域活動 新任者研修 説明(4 月 25 日)
- ・横浜市教育委員会 市民局 各区市民活動支援センター機能強化事業 全体研修 参加(5 月 30 日)
- ・神奈川県教育委員会「社会教育担当者コース」学習プログラム 受講(7月10日)
- ・横浜市教育委員会社会教育研究会 参加 (9月25日)
- ・横浜市教育委員会生涯学習支援研修2「地域課題に取り組む講座デザイン」参加(令和7年2月12日)
- ・横浜市教育委員会社会教育研究会 参加(12月19日)

出前研修等の実施

- ・横浜市南区 みなみラウンジ職員研修 (6月4日、26日)
- ・横浜市教育委員会 中区出前研修 (1 月22日、3 月 10 日)

視察と懇談会

- ・山梨県南都留郡 忍野村教育委員会(南都留地区社会教育担当者会) (11 月 26 日)

社会教育実習生の受け入れ

- ・法政大学政治経済学部 4 年生 全 9 回、40 時間

内容:社会教育について、いそご区民活動支援センター見学、いそご多文化共生ラウンジ、夢ひろば(子育て支援)、夢たま(高齢者支援)等での活動体験、社会教育士講座への参加、若者講座の企画等実習生の企画運営講座「z世代、集まれ！～推しごとでつながろう～」:実施(2 月 8 日)

- ・東京福祉大社会福祉学科 4 年生 -2 日間

内容:社会教育について、いそご区民活動支援センター見学、いそご多文化共生ラウンジ、夢ひろば(子育て支援)、コミュニティステーション夢まる(高齢者支援)等での活動体験

保守管理維持管理報告書

業務	頻度		備考	実施日・結果等
設備建物維持管理 (建築・電気・消防設備)	8 回／月	管理者点検	職員による点検	別紙「管理者点検」のとおり
	4回／年	定期点検	業者による点検 消防法上必要書類一式 点検及び館内点検	別紙「設備点検報告書」の とおり
空調設備の清掃	6 回／年	定期点検	業者によるフィルター掃除・ 点検	別紙「定期清掃作業報告書」の とおり
第一種特定製品点 検(空調設備)	4回／年	定期点検	室外機、室内機	別紙「簡易点検チェックシート」 のとおり
自動ドア点検	2 回／年	定期点検	自動ドア専門メンテナンス	4月 8 日:各部清掃、締付け 10 月7日:各部清掃、締付け
自動火災報知設備 点検票	2 回／年	定期点検	専門メンテナンス	5 月 13 日、11 月11日 異常なし
防火対象物点検	1回／年	点検	消防法上必要書類一式点 検及び館内点検	11月11日 異常なし
清掃業務	通年	日常清掃	シルバー人材職員およびス タッフによる各部屋とトイ レ・回廊等の清掃	
	1回／ 2 か月	定期清掃	業者による清掃:床ワック ス、網戸、ガラス、換気扇等 中心	4 月8日、6 月3日、8 月5日、 10 月7日、12 月2日、2 月3日 別紙「定期清掃作業報告書」の とおり
	6 回／年	定期点検	業者によるフィルター掃除・ 点検	別紙「定期清掃作業報告書」の とおり
小破修繕	随時			下欄内訳のとおり

小破修繕 内訳			
対応月	内容	対応月	内容
6月6日	トレーニングルーム ブラインド付け替え 1 か所	7月8日	電気配線工事
7月8日	暖房便座 3 台取り付け (男子、女子、バリアフリートイレ)	7 月8日	各部屋壁穴補修
7月 18 日	ピアノペダル修理	11 月8日	テニスコート用時計のための 取り付け金具設置

◆自主事業報告書

事業の目標1 社会参加

主体的な参加のきっかけづくり

①社会教育の場の運営

- ・利用者が主体的に活動にかかわれるよう、事務室にいる職員から先に挨拶をし、利用者に積極的にコミュニケーションを図り、風通しの良い意見の言いやすい関係を構築するよう努めた。ふらっと入ってくる利用者にも先に声かけをすることで不審者の確認など、防犯の面でも役立っている
- ・研修室・アートルーム・スポーツ広場等の適切な管理と充実した運営を職員全員で取り組んだ

②ホームページの管理

- ・自主事業をはじめ施設の紹介や実施イベント・講座情報を掲載し広く周知した
- ・施設の空室状況を毎日更新することで、利用者の予約、活動予定を立てやすいようにした
- ・施設の設備の状況など、必要に応じて更新した

③メールマガジンの発行

- ・施設からの案内や開催情報について、登録者に定期的に配信した。月1回発行した(登録115名)

④X(旧ツイッター)、インスタグラム、ブログの配信

- ・インスタグラムを介して施設内で行われたイベント、講座の様子、団体の活動などをタイムリーに発信した
- ・X(旧ツイッター)では身近な情報や次のイベント案内等、タイムリーな情報提供を心がけた
- ・ホームページ内にブログ「学びのとびら」を置き、社会教育に関わる情報を提供した

⑤掲示板や館内掲示の充実

- ・区版市民活動支援センターより情報紙のデータ化があり、1部を印刷して掲示した。また18区の名称をラックに貼り、情報をまとめたBOXを配置する等、各区の情報を探しやすくする工夫をした
- ・常に掲示物の情報を更新し、見やすい掲示を心がけた
- ・掲示物を「タイトル」別に掲示することで、利用者に情報を見やすくしている
- ・活動団体の作品や展示物を館内の掲示場所に掲示し、利用者に伝えることで、活動の成果物の展示、発表の場、交流の糸口としている

⑥相談・コーディネート

- ・専門の職員(社会教育士やコーディネーター)を配置し、市民の社会教育や生涯学習に関する相談、生涯学習関係職員の相談にきめ細やかに対応した
- ・相談者の学習活動が主体的、かつ活発になるよう、助言や必要な情報を提供した。また、相談内容の記録を蓄積し内部で共有することにより相談業務を円滑に進めた
- ・活動団体につなぐ際には、個人情報保護に配慮するとともに、スムーズに情報提供が行えるように職員間の情報共有を確実に行った

⑦読書活動による社会参加の場づくりと交流「おはなしの国」

目的: 幼児から大人を対象に「おはなし会」を実施。活動団体の交流の機会をもち、合同での開催を 1 回実施した。参加団体が「まとめの冊子」を作成し、当事業の参加団体に配布とともに配架した

日程: 全10回

対象: 主に未就学児とその親

参加人数: 280 人

内容: 団体をコーディネートして「おはなしの国」を開催した。活動団体にアンケートをとり、実施の希望や内容などを調整し、全 10 回を実施。運営資金や団体への謝金等は助成金(磯子区ふれあい助成金)を活用した

⑧ 親子の広場

目的: 乳幼児をもつ親同士がともに子育てや社会的課題について学ぶと共につながり、仲間づくりや社会参加の一步を支援する場として開催。「親子の広場」および「英語でリトミック」

内容: 楽しい雰囲気の中で手遊びや歌遊びを行うことで、交流を深め、顔見知りを作る機会とした。

季節行事の工作やふれあい遊び、英語でのリトミック体験などを通じて、関わりあう楽しさを体感した

日程: 全16回

対象: 未就学児とその親

参加人数: 372 人

事業の目標2 つながりづくり

多様な主体との連携・協働の推進

① 学校・地域コーディネーターのネットワークづくり(交流会)

交流・情報交換会を実施し、課題共有やプログラム・書類づくりについて学びあう「学校地域コーディネーターしゃべり場」を実施。対面以外に、日頃から LINE 等での情報提供、伴走支援を実施した

目的: 学校と地域をつなぐ学校・地域コーディネーターが活動しやすい環境づくりを支援する

日程: 全 3 回開催

対象: 学校・地域コーディネーター(磯子区)

参加人数: 29 人

内容: 第1回 学校運営協議会での立ち位置等を学校ごとに報告、年間活動のカリキュラムについてなど
第2回 磯子区社会教育指導員を迎え、活動内容の紹介。教育委員会主催研修の内容の共有など
第3回 会計・会計報告について、グループワークをしながら疑問点などを出し合い、発表

成果: 学校・地域コーディネーターは学校ごとに活動しているため、不安に思うことが多かったが、活動への思いや各学校の活動状況や情報を共有できる機会となり、不安が軽減された。また、よこはま社会教育士ネットワーク交流会への参加をきっかけに、南区の学校・地域コーディネーターも参加してくれた。さらに、周辺エリアに情報提供をすることで、少しずつ交流を広げ、ネットワークをつくっていけるようにしたい

② 図書館と市民活動・生涯学習支援センターの連携支援

目的：図書館と市民活動・生涯学習支援センターが連携できるようコーディネートすることにより、双方の強みを生かした事業の実施を支援する

内容：磯子図書館の読み聞かせボランティア交流会への情報提供や活動団体紹介のほか、それぞれの開催案内の広報協力を行うことで市民の活動を応援した

③ 紙芝居等を用いた交流会(読書プロジェクト)

目的：各区にある昔話やそれを元に作成した紙芝居をツールにした交流会や相互学習を行う機会の提供

日程：年3回(大人が楽しむおはなし会(3回))

対象：各学校の図書ボランティア、絵本が好きな人、おはなしに関心のある人

参加人数 92人

内容：横浜の昔話を題材した紙芝居・影絵等を持ち寄り、「大人のためのおはなし会」を開催。団体が作成した資料を壁面に掲示し、当日参加できなかった人やコーナー利用者にも物語の背景などを伝えた

成果：「大人が楽しむおはなし会」は学校ポストと図書館で配布したチラシから定員を超す図書関係者を集めることができた

④ 磯子区NPO連絡会への参画

磯子区の様々な市民活動を活発にする磯子区NPO連絡会と連携した取組の実施

いそご区民活動支援センターと共催して「地域活動フェス」に取り組んだ(3月8日参画)

⑤ 磯子区館長連携会への参画

隔月で区内地域施設の館長が集う情報交換の機会。磯子区内の施設の連携と情報共有をすすめるため、磯子区内の施設長が情報交換や連携を図り、協力して「いそびゴールデンウィーク2024」を開催した

当施設での景品交換数は337人

⑥ 市内・区内の社会教育関係機関との連携

当法人が南区、磯子区、金沢区等の依頼を受け、担い手育成や職員研修の事業を実施している関係を生かし、その区の生涯学習担当者との連携を深めた。また、教育委員会の研修で出会った区支援センター職員から担い手育成の講座の相談や学習展開の相談を受けた

事業の目標3 人材育成

地域の学びと活動を活性化させる人材の育成

① 社会教育・生涯学習関係職員への対応・サポート

各区支援センターや関係機関から寄せられた課題等について、適切な解決が図られるよう支援した。職員の来館や電話、研修現場などにおいて、担い手育成の講座内容への相談を受けることが多く、市民が主体的に活動するために職員が行う支援についてのスキルアップをサポート。また、必要に応じて講座や研修の実施を行った

② よこはま社会教育士ネットワーク交流会

目的:社会教育士の学びあうコミュニティを支えるために情報・交流と力量形成に役立つ場の提供をする

日程:全 9 回開催

対象:社会教育士および社会教育士をめざす人

参加人数:82 人

内容:社会教育士としてのスキルを高め、学習支援者として学び続けられるようサポートした【共催事業】

課題:開催案内の周知・広報、市の社会教育士関連講座やコーナー主催講座からの受講参加につなげる

③社会教育士を目指す人の育成(全 4 回講座)

社会教育士について理解を深め、ファシリテーション能力、プレゼンテーション能力、コーディネート能力を身に着ける講座を実施。「みんなで地域の課題を解決する『社会教育士』を学んでみよう 2024」の実施をした

目的:地域の課題を解決するための学びを支える、社会教育士を目指す人に向けた人材育成講座。受講者が講座終了後、各区で学びを支援する担い手として活動できるようになることを目指す

日程:全 4 回

対象:地域で市民活動をしている人、社会教育士または社会教育士をめざす人

参加人数:59人

内容:地域の課題解決に関わるプログラムの企画立案方法をグループでワークしながら実践的に体得する。

他者と話し合うことで、社会課題の捉え方、ファシリテーションスキル、合意形成の方法などを身につける。

成果:講座内で企画した内容を実際に連続講座として実施した。企画だけではなく実践として講座の運営を体得することができた

課題:企画した講座を実施するための体制、準備等

④若者企画体験プロジェクト

社会教育実習生として学んだ大学生が、高齢者の利用者が多い社会教育コーナーにどうしたら、若者が来るようになるかを考え、同世代が社会教育施設に集う機会として「Z 世代、集合！」の講座を企画・実施した

目的:若者(学生・企業人)が集い、自由な発想で活動できる場をつくり、プロジェクトを通して地域の異なる世代の人と関わる機会をもつ

内容:社会教育実習生として当施設に関わった大学生が同世代を集める企画として「Z 世代、集合！～推しごとでつながろう」の講座を実施した。企画を実施することで主体的な社会参加を体験する

日程:全 1 回(2025 年 2 月 8 日)

参加人数:3 人

課題:企画者の企画意図を尊重し対象者を限定したため、参加者の募集に難しさがあった

⑤地域活動の担い手育成

「社会教育士を学んでみよう！」の受講者が主体的に企画し「自分から始めるコミュニケーション講座」を実施。学んだことを実践してみることで社会教育的な力をつけた

目的:自分の伝えたいことについて、相手を傷つけずにしっかり伝えるためのコミュニケーション(アサーション)について学び、使えるようになる

日程:全3回

対象:テーマに関心のある人

参加人数:38人

内容:市民の企画委員が「自分から始めるコミュニケーション講座」全3回を実施。第2回に講師を依頼し、第1回、と第3回を企画委員が講師からの相談、アドバイスを受け実施し、学んだことを実践した。実際に参加者の反応、変化を体験することで連続講座の効果、他者との学び合いによる参加者の変化を実感することができた

成果:企画運営委員は社会的な課題の解決のために参加者と共に学び、次の課題解決を考えるようになり、地域課題を解決する主体となる、担い手育成につながった

課題:実施に至るまで、伴走支援が必要である

⑥子どもアドベンチャーカレッジへの参加

目的:市内の小学生を対象に「社会参加のきっかけづくり」の場と機会を提供した

日程:全1回

対象:小学校5年生6年生

参加人数:1人

内容:新しい称号である「社会教育士」について子どもたちに知ってもらうため「みんなが笑顔で暮らせるまちを考えよう!社会教育士のお仕事」を実施した。自分たちが暮らすまちに関心を持ち、まちづくりを自分ごととして捉えてもらうきっかけとした

⑥地域防災 防災から考える地域づくり

「防災のための紙芝居&救急法」、避難訓練と「くらしの備え。いつものもしも。」

目的:専門家と連携し市民の「地域防災」をテーマに社会人が集い、地域づくりに貢献する

日程:全3回

対象:一般市民、学齢期の子どもと親など

参加人数:64人

内容:現役の消防士とその仲間の団体と「防災のための紙芝居&救急法」を実施。また、企業の無印良品(株式会社良品計画)と「くらしの備え。いつものもしも。」をテーマに防災講座を行い、磯子消防署の指導のもと利用者と一緒に避難訓練等を実施した

成果:専門家からの説明と指導・実施により、地震に遭遇した際の動きやケガをした際の通報について、具体的に教えてもらった。専門家や企業と連携することで、参加者が講座を身近に感じてもらう機会となった

課題:消防や企業と協力して地域における防災についての意識を市民とともに高めていく

新たな地域課題への取組

①困難を抱えた子どもたちへの学習支援

目的：学習障がいを抱えたり、様々な理由で学習の遅れが生じている子どもの支援をする

日程：全 137 回

対象：学習に困難を抱える学生

参加人数：1,963 人

内容：社会的課題支援事業として位置づけ、社会教育施設として学習の継続性を担保した
「自習支援ぱれっとるーむ」「いそご勉強会」【後援事業】

②発達が気がかかりな子どもをもつ保護者のピアカウンセリング

発達が気がかかりな子どもをもつ保護者同士のピアカウンセリングの実施。「虹色カフェ」【共催事業】

目的：発達が気がかかりな子どもをもつ保護者同士のピアカウンセリングの実施し、保護者の仲間づくりの場を提供する

日程：全 11 回

対象：発達が気がかかりな子どもをもつ保護者

参加人数： 59人

内容：発達が気がかかりな子どもをもつ保護者同士のピアカウンセリングの実施。「虹色カフェ」【共催事業】

成果：個別級・通級・放課後ディサービス等、他では得られにくい情報について先輩ママから聞くことで、少し先の将来について見通しが立ち、安心することができる場となった

③多文化共生社会への意識づくり

目的：いそご多文化共生ラウンジと連携して、地域の外国人と日本人が集い相互理解を深め、多様性を認め合う多文化共生のまちづくりを推進する

日程：全6回

参加人数：155 人

内容：インド出身講師を迎え YOGA ワークショップを 3 回行い交流のきっかけをつくった。磯子区地域振興課主催の「いそご日本語ボランティア入門講座」を開催し多文化共生社会への理解や心構えを学ぶ場を提供。また、日本語教室の立ち上げやボランティアを考えている人に情報を提供した【共催事業】

広報・周知

- ・広報よこはま磯子区版および磯子区民活動支援センターの情報誌「いそつな」にスタッフが交代で担当の月を決めて情報の掲載することにした。2 人で対応することでダブルチェックの確認ができ、事業の広報について主体的に関わるようになった。また、HP、X に加え、Instagram にチラシを掲載することで若い年代にも情報を届けることができるようになった。また社会教育士についての情報についても、HP や Instagram に掲載することにより、市域から問合せや来所して情報を取りに来られる人もいる
- ・教育委員会生涯学習文化財課を経由して団体の担当者が学校ポストに行き実際にポスティングをすることで、実際に参加者が増えたことを実感でき、活動者の活動意欲を上げることにもつながっている。・地域情報紙「タウンニュース」「はまかせ」などに講座情報を掲載するほか、磯子区役所や図書館、地区センター、福祉施設、地域の子育て支援施設等にチラシを配架。コーナー前の掲示板に事業チラシを貼るなどの周知をした。

- ・当施設の HP、法人の HP、メールマガジン・においても、事業の周知をし、実施後も法人の会報紙などで事業報告をしている
- ・講座やイベントの参加者に参加後、施設からの連絡の希望をとり、次のイベントや講座の周知をしている

職員研修

- ・市民局・教育委員会主催の研修、および当法人内での職員研修を重ねることで、専門的な知識やスキルアップの習得を行い、社会教育コーナーの設置目標に向かって専門性を高めた
- ・毎月の休館日を職員研修に充て、全体研修 10 回を実施し、生涯学習・社会教育について毎回テーマを決めて研修を実施し、利用者のニーズに応えられるよう取り組んだ。（個人情報保護、社会教育、磯子消防署による消火訓練、AED訓練、避難誘導訓練など）